

国権の最高機関の裏方から

参議院総務委員会調査室長(専門員) **荒井 透雅氏(高校37期)**



1985年 3月 東京都立立川高校卒業
1990年 3月 東洋大学法学部法律学科卒業
1990年 4月 参議院事務局入局
2023年 7月 参議院総務委員会調査室長(専門員)(現在に至る)

■立高生活

高校時代は、赤座布団(落第点)と格闘していた勉学はもとより、部活も、立高祭の各種行事にも身を入れることなく、ブランク(休講)時に校庭の片隅で草野球を楽しみながら、自堕落な生活を送るのが基本でした。

しかし、幸か不幸か、自宅が立川駅南口商店街(現在の多摩モノレール立川南駅の辺り)にあり、キャンパス製作の人手が足りない、演劇コンクールの大道具の人手が足りない、文化祭にクラスで出品する映画撮影のスタッフが足りない、などと言っては、家でゴロゴロしていた私を、級友が強制的に学校に連れて行き、そのおかげで多少なりとも立高生らしい時間を過ごせました。

■私の仕事

現在、私は国会の参議院事務局総務委員会調査室で室長(専門員)という職を務めています。国会の事務局といっても、速記者や国会内の警備(議院警察)に当たる衛視以外の仕事は想像しがたいと思います。参議院の事務局には速記者、衛視以外にも、大勢の職員が大まかに三つの部門で働いています。まず、本会議や委員会の審議を運営面からサポートする「会議運営部門」、議会シンクタンクである「調査部門」、人事、会計、広報等を行う「総務部門」の3部門です。なお、国会職員は「三権力分立」の建前から、人事院が実施している国家公務員採用試験とは別個に参議院、衆議院がそれぞれ独自の採用試験を行っています。そして、私が所属しているのは「調査部門」です。

参議院の調査部門は、省庁ごとの所管に分かれて法案審査等を行う委員会に対応して設置された常任委員会調査室等が担っています。私は総務省の法案審査等のサポートを行う「総務委員会調査室」に所属しています。仕事は、議員に対して法案等の背景や内容等に係る情報提供を行うことや、個別議員の依頼に応じての資料収集や法案の課題等についての助言・提言を行うことです。国権の最高機関で働く緊張感、そして、助言・提言が採用されて議員が質問をした結果、法の運用や次回改正にそれが活かされた時の達成感など、責任とやりがいをもって仕事に当たっています。

立高といえば、就職2年目の地方視察のバス移動時に故・岡野裕参議院議員(元労働大臣)が隣の席に来て、話題もなく気まずい雰囲気でしたが、議員が立高(旧制二中)OB(中学40期)であることを思い出して、議員の立高時代のお話を伺い、場が和んだのも立高卒の恩恵でした。

■立高生へ

今にして思えば、自堕落で無駄に過ごした高校時代は悔やまれてしかたありません。現役生には、経験を積み、人生を豊にするため、高校生活を積極的に楽しみ、チャレンジし、謳歌してもらいたと思います。



参議院総務委員会に出席する筆者(後列右端) 参議院インターネット審議中継より作成



参議院調査室作成資料

最近の執筆

『視点 日本一のまち』立法と調査464号(令和6年2月26日)
https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2024pdf/20240226002.pdf
『視点 少子化と参議院決議と丙午(ひのえうま)』立法と調査459号(令和5年8月2日)
https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2023pdf/20230802002.pdf
『受信料制度についてのこれまでの論議と外国の動向』立法と調査429号(令和2年11月2日)
https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2020pdf/20201102003.pdf
『テレワークの拡大と課題』立法と調査425号(令和2年7月8日)
https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2020pdf/20200708042.pdf

※「立法と調査」は、参議院議員及び秘書等向けに参議院事務局企画調整室が編集・発行(非売)している雑誌です。